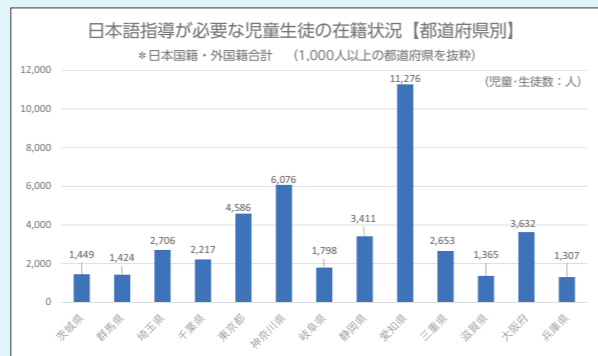


子どもたちの心に寄り添う支援を

「外国につながる子ども」とは、外国籍の子どものことを指すのでしょうか。様々な国・地域から新たに来日する子どもがいる一方、「日本生まれ・日本育ち」や、外国にルーツをもつ日本国籍の子どもの数も増加しており、その背景・環境、彼らを取り巻く課題はますます複雑で多様になっています。愛知県の「日本語指導が必要な児童生徒」は、全国最多の11,276名(平成30年度文部科学省調査)です。言葉・制度・心の壁を抱える子どもたちへの支援のあり方が問われています。



▲「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」平成30年度(文部科学省)

名古屋国際センターでは、こうした外国人の子どもとその保護者が抱える課題を理解し、自分ができる関わり方を考える研修(全3回)を開催しました。

第1回では、当センターに寄せられる相談事例から、外国人の保護者や子どもたちの現状と課題を学びました。

第2回では、地域・学校などで子どもたちを支援している実践者を招き、支援のあり方を考えました。名古屋市内で「自主夜間中学 はじめの一步教室」を主宰する笹山悦子さん(愛知夜間中学を語る会代表)は、「支援者も学習者であり、学習者も支援者である。支援する側、される側に分けるのではなく、お互い地域の一員として支え合う居場所が必要」と語りました。国籍や世代などの違いを越えて学び合うふれ合いの場は、子どもたちにとっての「心の居場所」になるだけでなく、住民同士の結びつきを深め、地域の活性化にもつながっていくことを感じました。

第3回では、外国につながりを持つ若者とその保護者・支援者をゲストとして招き、体験談を聞きました。

小学校で来日した陳さん(中国出身)は、中学生のときに日本語を克服しましたが、外国人選抜特別枠を通じた高校入学後も、別教室での取り出し授業など、彼女にとってはもう必要のない支援を受けました。そのことで、周りから「外国人生徒」として特別な目で見られ、学校を辞めたいとさえ感じたこともあったそうです。当時の辛い思いを赤裸々に語りながら、「支援は“適当”でいい、本人にとって本当に必要な支援を」とメッセージを送りました。

15歳で来日した浅野さん(台湾出身)は、ボランティアの先生との出会いを振り返りながら「最

初に日本を好きにさせてくれたから、スポンジのように日本語を吸収できた。まずは日本を好きにならないと辛いことも乗り越えられない」と語ってくれました。

中学時代を日本で過ごし、現在はALT(外国語指導助手)として、瀬戸市内の公立小学校で、子どもたちを支援する立場で活躍するケイさん(フィリピン出身)は、「サポーターにとって一番大切なのは、子どもたちの気持ちに寄り添うこと」を強調しました。

ペルマタさん(インドネシア出身)も15歳で来日。来日当初に感じた孤独や、高校進学への不安で涙が止まらなかった日々を語りました。それを乗り越える力となった家族との絆や、高校の先生、友達との出会いに感謝の言葉を述べる彼女の姿に、参加者は胸を打たれました。

ゲストそれぞれの体験談は、様々な背景をもつ子どもたちが同じ地域に暮らし、十人十色の支援を必要としていることを鮮明に伝えてくれるものでした。子どもたち一人ひとりの心に寄り添えるサポーターが増え、彼らの未来の活躍に繋がることを願うばかりです。



▲第3回「保護者や子どもたちの声を聞こう」パネルトークの様子
上部左:浅野さん、浅田さん(支援者)、上部右:ケイさん、下部左:陳さん、下部右:ペルマタさんとお母さん

新型コロナウイルス関連

外国人支援総合相談会

外国人住民を対象にワンストップ型の相談会を8月1日に実施しました。

新型コロナのワクチン接種券が市民に配布され、接種も順次進んでいますが、日本語が不慣れな外国人にとっては手続き等で非常にアクセスしづらい状況です。本相談会では、希望するすべての人がワクチン接種を確実に受けられるよう、接種場所のウェブ検索や予約、予診票記入等の手助けを行うとともに、逼迫した生活状況にある外国人住民のため、関係機関・団体、名古屋国際センター登録ボランティアの協力を得て実施しました。当日は、ワクチン接種予約手続き等のほか、在留資格や労働、住居、支援金のほか生活全般など内容別に個別ブースを設け、それぞれの専門担当者が相談に対応しました。



▲ワクチン接種予約を手伝うボランティア

会場を訪れ、担当者の補助のもと大規模接種会場でのワクチン接種を予約できたイタリア出身の英語教師、パトリシアさんは「インターネットで相談会の開催を知りました。少しでも早くワクチンを

打ちたかったけれど、言葉の問題で私一人ではできなかった。今日ここに来て、無事予約ができたことに安心した」と喜びを語りました。また、家族と一緒に会場を訪れたトルコ出身の男性は、「子育て給付金による経済的な支援の存在を初めて知れたし、希望する永住ビザの取得のための条件も揃っていることが確認できて良かった」と感想を述べました。ワクチン接種のほか、在留資格の変更、年金の受給資格、出産時の費用や行政支援などの相談が寄せられました。

名古屋国際センターでは、今後も関係機関・団体との連携を深めながら、市民サービスに努めていきたいと考えています。

<協力機関・団体等>

愛知労働局、外国人ヘルプライン東海、住まいサポート名古屋、名古屋市健康福祉局、名古屋市子ども青少年局、(社会福祉法人)名古屋市社会福祉協議会、名古屋出入国在留管理局 (五十音順)



▲協力団体は各ブースに分かれて対応

書き損じはがきをご寄付いただきました

下記団体より、NICが事務局を務める「世界寺子屋運動」名古屋実行委員会へ、書き損じはがきのご寄付をいただきました。ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



日本労働組合総連合

愛知県連合会
(連合愛知)

- ・はがき20,149枚(約95万円相当)
- ・金券類(約16万円相当)



日本郵便株式会社

名古屋市南部地区連絡会・名古屋市北部地区連絡会・名古屋市中部地区連絡会・西尾張地区連絡会・中尾張地区連絡会・知多地区連絡会・西三河地区連絡会・東三河地区連絡会

- ・はがき85,945枚(約457万円相当)
- ・金券類(約164万円相当)



世界寺子屋運動 KARIYA実行委員会

事務局:社会福祉法人
刈谷市社会福祉協議会

- ・はがき10,135枚(約48万円相当)

書き損じはがきキャンペーンとは

書き損じたり、汚れたり、余ってしまったはがき(ポストに投函していない通常はがき、年賀状など)を集め、途上国の識字教育を支援しています。例えばカンボジアでは、書き損じはがき11枚で1人が1か月間、学校に通える資金を得ることができます。未使用切手も集めています。皆様からのご支援をお待ちしております。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、はがきを整理するボランティア活動を縮小しており、いただいたご寄付へのお礼が遅れる場合がございます。あらかじめご了承ください。

☎(公財)名古屋国際センター交流協力課内

「世界寺子屋運動」名古屋実行委員会事務局 ☎052-581-5691 詳しくはこちらをご覧ください。▶

